

# 風評被害の川内村「滝根みかげ」



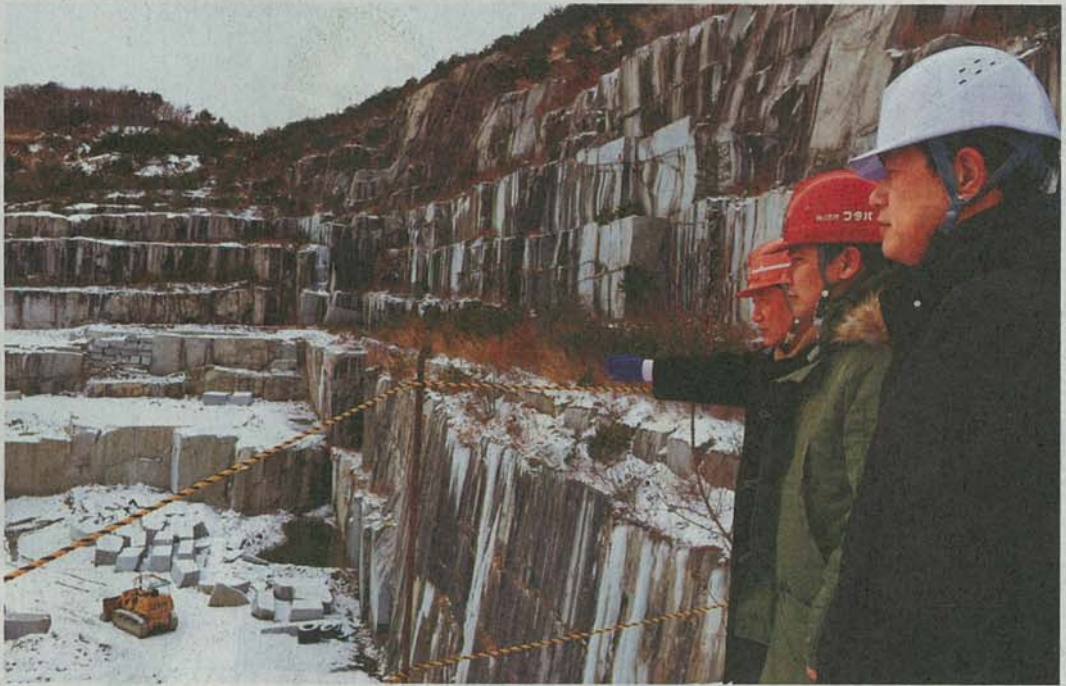
東京電力福島第1原発から30km圏の福島県川内村で採石される「滝根みかげ石」が、原発事故から3年近くたった今も風評被害にあっている。需要は東日本大震災前の半分。雇用を守りながら採石を続ける業者は「全国の人に滝根みかげの良さと安全性を理解してもらえよう、努力を続けたい」と話す。

【吉田卓矢、写真も】

滝根みかげ石は、採石は2011年、採石場近くの地名にちなんで命名され、墓石や壁、床などに使われる。白い石の肌に見える黒い点を散らし、磨くと長く艶を保つ銘石として知られている。

村内唯一の採石場を運営する石材会社「イシフク」（本社・静岡）は、震災と原発事故の影響で、3月11日、震災と原発事故の影響で、村の大部分は緊急時避難準備区域となり、全村避難状態に。同社も操業を停止し、現地社員ら13人の多くが避難を決めた。望月隆司

## 出荷半減 安全性訴え



①テーマパーク計画地の周辺を見回るイシフクの望月秀康社長（中央）ら—福島県川内村で6日②滝根みかげ石で造った納骨堂—同県本宮市で2011年11月25日



深刻だった。砂利などとは違い、墓石などの石材は表面を削り洗浄加工して出荷するが、震災後、新規受注は止まった。安全性を訴える努力に全力を挙げ、12年5月に高松市で開かれた展示会では、石材サンプルを用意し、来場者の前で放射線量を測定した。13年5月には石材卸業者60社、同10月には105社を採石場に案内。放射線測定機を使い、安全だと示した。

副社長(45)は、3月分でのしげる。避難しての給与を現金で渡し、も給与は払い続ける「解雇はしない。在庫と約束した。」

同年4月中には村外の支店を拠点に全員が職場復帰し、地震で壊れた墓石の修理などにあたった。緊急時避難準備区域が解除された同年9月には採石を再開し、再生に期待をかけた。

# 取り戻す 銘石の光

しかし、風評被害は貢献したい」と話した。